

お客様の要望に応え続けて103年 硬軟大小なんでも来いの工作機械メーカー

株式会社 野村製作所

“MADE BY NOMURA QUALITY”を信条に、ものづくりの現場を支えるマシンカンパニーとして、日本国内に留まらず世界中で信頼を集める株式会社野村製作所。工作機械一筋で事業を続けてきた同社は2013年に創業100周年を迎え、さらなる高みを目指し新たな100年に向けて歩みはじめました。

変動の激しい工作機械業界のなかで、同社がいかにして市場を生き抜いてきたか。ご自身も技術者として長年現場に携わり、時代の変遷に立ち会ってこられた、社長の森恭男氏にお話を伺いました。



野村製作所の創業の歴史— 工作機械一筋の103年間

1913年（大正2年）、弊社は工作機械専門メーカーとして創業しました。

当時、日本の工作機械のレベルは高くなく、ドイツをはじめとする欧米諸国の技術を日本に取り入れたいという、創業者の強い思いから事業が始まったと伝え聞いています。

織機から工作機械へと事業を変遷してきた企業が多いこの業界で、弊社は創業当時から工作機械を事業の核に据えていました。

第1号機として旋盤をつくったのを皮切りに、工作機械一筋で事業を続け、1927年（昭和2年）に横中ぐり盤の生産をスタートします。この製品は現在も弊社の主力製品として位置づけており、数多くのお客様にご使用いただいています。

子会社としての野村製作所— 工作機械業界隆盛の時代

もとはオーナー企業として出発した弊社ですが、1世紀以上の歴史のなかで、ある会社の傘下に入った時期がありました。

子会社化された1937年（昭和12年）は、軍需産業の最盛期です。弊社も軍からの仕事を主として、重厚長大なものづくりを行う大手企業を相手に取引をしていたようです。

終戦後しばらくすると、今度は朝鮮戦争の勃発にともなう特需により、政府の工作機械振興策が打ち出されます。そのときに、当時の通産省からの補助金を受け、再び横中ぐり盤の生産に力を入れるようになりました。

これが、現在の弊社につながるターニングポイントといえます。

野村製作所の新たな船出—

いかにして苦境を乗り切ったか

弊社が再び独立を果たしたのは、子会社化から64年後の2001年（平成13年）のことです。

携帯電話が広く普及し、ITなどの軽薄短小な産業が持て囃された時期で、景気の影響を受けやすい工作機械業界が特に苦しんでいた時代でした。

弊社が苦境を乗り越えることができたのは、その当時新たに開発した「ラッピング研磨機」のおかげです。

ラッピング研磨機は、液晶テレビで使用するフォトマスクをつくるため



テーブル型横中ぐりフライス盤

株式会社 野村製作所

代表取締役：森 恭男

創業：1913年（大正2年）

従業員数：92名

事業内容：工作機械、チャック、
環境機器の製造

工作機械だけじゃない！ こんなところにもある NOMURA

100年以上にわたって工作機械一筋で事業を進めてきた同社。そのなかで蓄積されたノウハウは、工作機械以外にも、さまざまな分野の製品に活かされています。

食品・製菓業界向けに開発された粉袋用「外袋クリーナー」は、異物混入対策や、生産ラインの自動化・省力化対策として、大手メーカーにも広く活用されています。原料の取り出し・投入を行う「自動開袋機」とあわせて、「MADE BY NOMURA」の製品は、金属加工以外の分野でも活躍しています。



粉袋についた汚れを叩き落として異物を取り除く袋クリーナー「CN-300D」



粉袋の開袋・原料投入・空袋排出を自動で行う直線刃移動方式・自動開袋機「TN3-S」

の機械です。当時流行していた液晶テレビの大画面化を背景に、ガラス加工メーカーから多くの引き合いをいただき、工作機械不遇の時代を耐え抜くことができました。

野村製作所の工作機械—

一品一様のオーダーメイド製品

弊社がつくる工作機械の多くは、お客様の要望に合わせて作り上げていくオーダーメイド製品です。これまでも、大きなものや硬いものを削るための専用機を数多く手掛けてきました。

なかでも特徴的なものが、発電用ロータリータービンを加工する専用機です。このタービンには難削材が使われており、サイズも大きいため加工には特殊な専用機が必要になります。

お客様からの要望を受けて、総重量70トンという特大サイズの機械をつくりました。2台の横中ぐり盤を向かい合わせに配置したような形状で、効率的な加工を実現した製品です。

納品からしばらくして東日本大震災が発生し、納入先の工場も被災してしまったのですが、弊社の機械はその後も故障することなく稼働を続けたそうです。他のメーカーの機械が修理やメンテナンスを必要としたなか、被災前と変わらず稼働を続けられたことに対して、お客様からは感謝状をいただきました。

野村製作所が持つ強み—

積み重ねたお客様からの信頼

一品一様のご要望に応えるためには、いずれも大変な苦勞があります。しかしこの100年間、お客様からの信頼を投げ出したことは一度もありません。時間がかかろうとも、お客様の声にしっかりと耳を傾け、要望に応え続けてきました。そうして積み重ねてきたお客様からの信頼が、弊社のもっとも大きな強みだと私は考えています。

もう一つの強みが、精度と耐久性へのこだわりです。

弊社では加工精度の誤差を、ISOで定められた数値の半分に抑えることを目標としています。さらに、その精度を維持するには耐久性も欠かせません。現在、もっとも古いもので、50年以上前に納品した製品がお客様のもとで稼働しています。メンテナンスや消耗品の交換は必要ですが、一度納品した製品はできる限り長い期間ご使用いただきたいと思っています。

100年受け継ぐ心と技—

“MADE BY NOMURA QUALITY”

弊社が100年以上にわたって工作機械をつくり続けてこられた要因は、大きく二つあると考えています。

一つは、基本を忠実に実行することです。真っ直ぐなものはより真っ直ぐに、円いものは限りなく真円に近く、そして角度のあるものはその角度にぴったりと合わせる。この基本を守

れなければ、お客様のもとで製品を組み立てたときに、精度を保証することができなくなってしまいます。

もう一つが、熟達した技術者を育てあげるとい、人づくりの考え方です。

機械化や自動化が進むなかでも、工作機械をつくるには、必ず人の手による作業が必要になります。その最たるものが、機械摺動面へのキサゲ作業です。決まった手順や数値があるわけではなく、マニュアル化することが難しいキサゲ作業は、一朝一夕に習得できるものではありません。先人から受け継いできた高い技術をさらに次の世代へと伝承していくことが、これからのものづくりにおいても非常に重要です。

野村製作所の次の100年—

広がるものづくりの可能性

100年以上続けてきたことを、劇的に変えるつもりはありません。

お客様の要望を聴き、要望に応えられるよう技術を身につける。それを続けていくことが、これからの100年間に繋がっていくと私は考えています。

そして、お客様の要望に応じていくなかで、新しいことに挑戦していきたいと思います。最近ですと、金属以外のものを削りたいという声をよく耳にします。そういった新たなニーズに応えるために、これからも技術力の向上に努めていきたいと思っています。